ハラール認証のスキンケア「桃姫」

PBJ グローバル展開を視野に

PBJは3月3日の桃の節句に合わせ、ハラール認証を取得したスキンケアシリーズの「桃姫」を発売した。同シリーズは、イスラム教で禁止されている豚由来成分やアルコール成分を排除した「ムスリムフレンドリー」処方となっており、洗顔フォーム、化粧水、保湿ジェルクリームの3品を展開する。

PBJは、小林美枝子社長の実家である矢萩青果店を原点とする。2010年に青果店の屋号を「Greenfoods17」に変更し、小林社長のもう1つの顔である会計士として会計コンサルティング事業を展開する会社を設立した。

同社がインドネシアやシンガポールへの海外進出、進出後のコンサルティングなどを行っている関係で、インドネシア・ジャカルタに連絡事務所を開設したことがきっかけとなり、シンガポールでの在住経験のある小林社長が現地で日常的にムスリムの女性と触れ合い、そこでムスリムの女性たちがメイドインジャパンの化粧品に対して憧れを抱いていることを知ったという。

小林社長

しかし、日本の化粧品にはイスラム教で禁止されているアルコールや豚由来の成分が配合されているものが多く、さらに価格も現地では1万円以上の高級品の扱いになるため、戒律を守るために使えなかったり、富裕層しか手に入らないのが現状だった。こうした悩みがあることを知った小林社長は、「ムスリムの女性でも使えるメイドインジャパンの化粧品をつくりたい」という思いに駆られ、2012年頃から化粧品の研究を始めた。

実家が青果店のため、夏になると母親が「体にいいから食べなさい」と毎日のように食べさせていたという桃の栄養価に可能性を見出した小林社長は、OEMに検査を依頼。すると、桃には様々な美容機能があることがわかった。これに着目し、「桃姫」では保湿や整肌、エイジングケア機能の高い桃葉エキス、桃果汁、桃種子エキスといった桃をキー成分とし、日本を連想させる桜の葉のエキスやシソの葉エキス、ヒアルロン酸を配合した。

さらに、ハラールの関係で豚由来成分は使えないため、魚由来のコラーゲンを配合してエイジングケア機能を高めている。まずはタイやインドネシアなど東南アジアを中心とした蒸し暑い地域のみでの販売を予定していたため、さっぱりとした使用感が特長という。また、容器やパッケージでもメイドインジャパンにこだわり、あえて漢字をデザインすることで日本を連想させるデザインにしている。

誰でも使えるようにと価格は「フォーミングフェイスウォッシュ」(100g780円)、「モイスチャーローション」(150mL1980円)、「モイスチャージェルクリーム」(30g1980円)と、合計で1万円以内になるようにした。

「商品を通じて日本の文化にも触れてほしいと思い、桃の節句の日を発売日とした。ハラール認証は誰でも安心して使える印だと考えている。化粧品事業に関しては、ハラール認証以外のものをやるつもりはない。そして特に桃にフォーカスして商品をつくりたい」(小林社長)

現在、自社通販サイトやAmazon、アジアを中心に通販サービスを提供するQoo10といったECサイトのほか、サッポロドラッグストアーの免税対応店や東比寿にあるハラール対応美容サロン「ソルピスカ」で販売しており、特に「ソルピスカ」では、在日のムスリム女性に対して正しいスキンケアや美容法についてレッスンを行っていく。

小林社長は「当初は東南アジアを中心に販売していく予定だったが、国内のみならず欧米やウイグル、トルコなど想定外の様々な地域から商談の依頼が来ている」と嬉しい悲鳴を上げている。

今後については、販路を拡大するとともに新商品の開発やハイクラスラインの展開なども視野に入れ、「桃姫」の土台を固めていく方針だ。

扱うようになって企業も大きく成長している。国別では韓国製品が最も多く50%を占め、日本製品はまだ15%程度であり、売上げの半分を紙おむつが占めている状況である。中国人にとって、日本の化粧品はこれまで受け継がれてきた伝統とクオリティの高さが魅力である。だからこそ、日本を訪れた中国人は化粧品をたくさん購入して帰ってくる。今回は、日本の化粧品をもっと紹介していきたいという当社の思いと合致したことで実現した」と協働の経緯について語り、こう続けた。

「日本で気になった商品については中国に戻ってから購入できるような環境を提供することで、中国人が訪日した際に観光中心の旅行時間を過ごし、日中間の交流が深まっていくことも併せて期待したい」

来賓挨拶では、江東区を地元とする自民党・衆議院議員の秋元司氏が「中国人の『爆買い』に代表されるインバウンドの経済効果は年間3・5兆円と推計され、日本経済の中で唯一、大きく伸長している分野であると言っていい。今後も(インバウンドへの)期待を高めてはいるが、中国国内で日本の製品を購入できる環境は、グローバル化が進展していく中で企業の成長を大きく後押しすることになる。日中間の架け橋となり、インバウンドからアウトバウンドへと好循環を生み出してもらいたい」とエールを送った。

JUMEIの刘惠璞副会長

JVインターナショナル(オフィス兼ショールーム)/所在地=東京都江東区東陽4―3―1東陽町信栄ビル6F▽最寄駅=東京メトロ東西線東陽町駅(1番出口から徒歩1分)▽TEL=03―6666―5151